

知識の花弁

三田メディアセンターだより

No.10
2017秋



撮影：石戸 晋

図書館活用スキルを磨け!

—ライブラリー・オリエンテーションのすゝめ—

知って良かった ツール & サービス
電子ブック

コレクションの広場
村上義一文書

資料紹介
廣海二三郎家文書 —近代日本の産業化を読み解く—

スタッフレポート
東洋印刷文化の歴史を知る —漢籍整理長期研修に参加して—

図書館の舞台ウラ
挙動不審者じゃないんです!
害虫との密かな闘い

主な出来事 (2017.4-2017.9)

お知らせ



慶應義塾図書館

図書館活用スキルを磨け!

— ライブラリー・オリエンテーションのすゐめ —

三田メディアセンターの蔵書は、国内屈指の約290万冊! さらに、電子ジャーナルや電子ブック、データベースなどの電子資料も数多く導入している、いわば「知の宝庫」です。これらの膨大な資料や図書館サービスを上手に活用するスキルを磨くためには、図書館で開催される様々なオリエンテーションに参加するのがおすすめです。目的や利用者別に、様々なオリエンテーションをご用意しています。

文献探索ツアー

通年

所要時間	60～90分 ※ご希望に応じて
最少人数	3名～
申込期限	実施希望日の1週間前まで

みなさんの研究テーマに合わせて、おすすめのデータベースや資料の探し方を案内するオンデマンド型のツアー。館内を実際に歩いて、研究に役立つ資料をご紹介します。ツアーに参加した後は、図書館のウェブサイトにある「ゼミ別基本資料」で、紹介されたデータベースや資料をチェックしましょう。早い時期に資料の探し方を知っておけば、三田での研究が充実すること間違いなし!

文献探索ツアーの様子を、ちょっとだけご紹介します

1



文献探索ツアーのスタート

秋から開催場所を1階エレベータ前に新設のイベントエリアに引越しました。

2



各種図書館サービス、 図書・雑誌論文の探し方、データベースの紹介

今まで知らなかったKOSMOSの便利な機能や図書館のサービスを再発見! 教えてもらった情報検索のコツや便利なデータベースは、さっそく研究に役立ちそう。

New

3



図書館ツアーに出発!

研究テーマに沿ったオーダーメイドの図書館ツアーだから、自分の研究に関連のある資料や施設をピンポイントで紹介してくれます。あまり行ったことのない図書館旧館や南館図書室を知るきっかけにも。

4



ツアーの終了後は、「ゼミ別基本資料」で復習

ツアーで紹介されたデータベースや資料をまとめた「ゼミ別基本資料」で、ツアーの内容を復習! よく使う情報源やデータベースへのリンクもまとまっているから、研究のポータルとしても使えます。

check!



今までに文献探索ツアーに参加したゼミの「ゼミ別基本資料」には、こちらからアクセスできます。 <http://www.mita.lib.keio.ac.jp/search/zemi/index.html>



データベース体験講座

通年

所要時間	60～90分 ※ご希望に応じて
最少人数	7名～
申込期限	実施希望日の2週間前まで

パソコン室でデータベースの検索実習を行います。
 内容はご希望に沿ってアレンジします。
 データベースの使い方をじっくり学ぶことができます。

引用・参考文献の基礎講座

6月以降

所要時間	45分
最少人数	3名～
申込期限	実施希望日の1週間前まで

論文・レポート作成の際に欠かせない、引用と参考文献リスト作成についての基本を説明する講座です。引用と剽窃の違い、引用の仕方、参考文献リストの作成、引用箇所と参考文献リストの対応について説明します。



剽窃・盗用

他者の著作物等を、**適切に出所（出典）を示さず**に使用すること。

✗

ネットで見つけた文章を、そのままコピー＆ペーストしてレポート作成

✗

出所を示さずに文章をコピーし一部の言葉だけ言い換える

✗

写真や画像を出所を示さず使用する

すべて剽窃・盗用

申込方法

「文献探索ツアー」「データベース体験講座」「引用・参考文献の基礎講座」の申込は、図書館（新館）1階レファレンスカウンターで受け付けています。

▼詳しくは下記URLをご覧ください。

<http://www.mita.lib.keio.ac.jp/guide/orientation.html>



他にもこんなオリエンテーションを開催しています。

日時などの詳細については、開催時期が近くなりましたらウェブサイトでご案内します。

大学院
新入生向け

- ・法務研究科新入生向け図書館ツアー（3月）
- ・大学院新入生向け図書館ツアー（4月）

通信教育
課程生向け

- ・図書館セミナー「卒論執筆のための文献収集」（5月・10月）
- ・図書館セミナー「図書、雑誌論文の探し方」（8月）

留学生向け


- ・Library Orientation for International Students（4月・9月）

電子ブック


KOSMOSの検索結果から直接アクセスでき、パソコン上で手軽に読むことができる電子ブック。慶應では、356,000タイトル（うち和書は4,500タイトル）を契約しており、学内のパソコン、または慶應IDをお持ちの方は学外からもご利用いただけます。

電子ブックはKOSMOSで探せます

「図書」「オンラインアクセス」と表示されるものが電子ブックです。「図書」「オンラインアクセス」「タイトル」のいずれかをクリックすると電子ブックにアクセスできます。

 検索結果を電子ブックだけに絞り込むにはKOSMOS画面左側で以下のように指定します。

- ・次の条件のものだけを表示 ⇒ 「オンライン」
- ・資料種別 ⇒ 「図書」



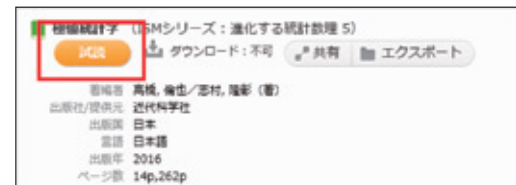
※同時に閲覧できる人数（同時アクセス数）や、一度に印刷・保存できる量などが決められている資料も多くあります。



試し読みができる電子ブックもあります

① Maruzen eBook Library

丸善雄松堂が提供する電子ブックコレクションです。慶應で購入していない電子ブックの場合、「試読」と表示されます。画面上で試読ができますが、印刷やダウンロードはできません。




② ProQuest Ebook Central

ProQuestが提供する電子ブックコレクションです。慶應で購入していない電子ブックの場合、画面上で5分間試読ができ、同じ画面から購入希望を申し込むことができます。（要アカウント作成）



電子ブックの購入希望

電子ブックの場合、冊子（紙）よりも早く入手できるという利点があります。購入希望はオンラインリンク先からお申込みいただけます。（※ProQuest Ebook Centralの場合は電子ブックのサイトから直接申し込むこともできます。）

 購入希望理由を必ずご記入ください。

- ・冊子をすでに持っていることもあります。お申込みの前にKOSMOSでご確認ください。

電子ブックの購入を希望する場合は、希望メディア ⇒ 「電子」にチェックしてください。

三田メディアセンターウェブサイト>オンラインリンク先>購入希望申込

電子ブックについてご不明な点がございましたら、1階レファレンスカウンターにお問合せください。



村上義一文書

「村上義一文書」は、村上氏が満鉄の理事在任時に入手した、約1,000点におよぶ満鉄関係のコレクションです。その内容は①満州事変前の満蒙鉄道問題に関するもの、②新線建設など満鉄の協力についての文書、③満州国建国に伴う鉄道の委託経営、建設に関する文書、④満鉄改組問題に関する文書、⑤北満鉄譲渡問題に関するものの5つに大別することができます。これらの資料の中には、政策立案書や意見書、書簡や電報など多岐にわたっている文書も保管されており、日本の法制史の原資料として貴重なものとなっています。慶應義塾大学には日本軍の支配した植民地・占領地に関するコレクションとして、

「望月文庫」「戦争文庫」などが所蔵されていますが、「村上義一文書」もその一つと言えるでしょう。

村上義一氏は明治18（1885）年生まれ、大正元（1912）年に鉄道院（鉄道国有化によって設置された鉄道行政の中央官庁）に就職し、その後は鉄道省神戸鉄道や大阪鉄道の局長など、鉄道・交通関係のキャリアを積んでいきます。そして昭和5（1930）年7月から昭和9年7月までの4年間、南満州鉄道株式会社（以下満鉄）の理事となります。その後は日本通運の社長、運輸大臣を二度務めたほか、日本交通公社会長、近畿日本鉄道社長、経団連顧問を歴任、昭和49年に亡くなりました。

村上氏が理事を務めていた4年間は、満鉄にとって激動の時期でした。理事に就任した翌年の昭和6（1931）年9月18日に満州事変が起こったことをきっかけに、昭和7年には満州国が建国、これらの政治的な動きに満鉄は協力することになり、関東軍の支配下に入っていきます。さらに、軍によって得ていた経済権力を削減することを目的とした、満鉄改組が進められていきます。

「村上義一文書」が慶應義塾大学のコレクションとなったのは、昭和49（1974）年に、当時慶應の法学研究科に在籍していたご子息の村上祐一氏より、法学部に寄贈されたことによります。文書は、法学部の教授、大学院生からなる村上義一文書研究会によって整理、研究が進められました。通常、原本は研究上の必要性が認められた場合のみの閲覧となりますが、全資料を収録したマイクロフィルム版が刊行され、自由に閲覧利用することが出来ます。

（請求記号：YA@518）

（浅尾千夏子）





資料紹介

ひろうみにさぶろうけもんじょ 廣海二三郎家文書

— 近代日本の産業化を読み解く

[EC@8A@5666]

中西 聡
(経済学部教授)

三田メディアセンターに所蔵されている廣海二三郎家文書は、明治期から昭和戦前期に至る簿冊類を中心とする古文書コレクションである。廣海二三郎家は、近世後期から船持商人として主に日本海で活躍し、学術的には北前船主と位置付けられている。北前船とは、日本海沿岸地域に経営拠点を置く船主の船で、船主が自ら商業も行い、積荷を自ら買い付けてそれを別の港に運んで販売する買積形態に特徴があるとされる。実際、廣海二三郎家の出身は加賀国瀬越であったが、同家の近世期の海運経営の主要形態は、蝦夷地産の魚肥を買い付けて、自らの船で主に大坂に運んで販売することで、蝦夷地と大坂の地域間価格差を活かして巨額の利益を獲得していた。そのため、近代期にもかなりの資産を所有し、北海道の小樽と大阪に店を設け、帆船に加えて汽船も所有し、鉱山業へも進出するなど、多角的に経営を展開することで、近代日本の産業化に非常に大きな役割を果たした。

そのため、三田メディアセンターに所蔵されている同家文書の内容も多岐にわたっており、その内容をジャンル別に紹介する。まず、興味深いのが、1887(明治20)年～1915(大正4)年にかけての記載がある「日本形船帆船売買書類」(簿冊)である。廣海二三郎家など北前船主は、運賃を受け取って決められた輸送を行う運賃積ではなく、地域間価格差を

活かした買積形態を行ったが、これは海難の際のリスクや売れなかったときのリスクが大きい経営形態であった。そのため、地域間価格差が大きい時期には、非常に大きい利益が得られたが、近代期になり電信網・輸送網の近代化により地域間価格差が縮まってくると、こうした買積形態は利益があまり上がらない代わりにリスクが大きくなり、近代になると次第に北前船主は海運経営から撤退するようになった。ところが、廣海二三郎家は、20世紀に入っても帆船を所有して、自家の買い付けた積荷を自家の船で運んでいた。その背景には、廣海二三郎家が、積荷の買入れ場所の北海道小樽と積荷の販売場所の大阪の両方に店を設けて、商品の流れに沿って経営の垂直統合を進めていたことがある。

しかも同家は、帆船を所有する一方で、新時代に対応するために、汽船も所有しており、北海道と本州の間で、帆船による買積形態の海運と汽船による運賃積の海運の両方を並行して行っていた。汽船は大量の積荷を帆船よりも早く目的地に運べるが、船体価格が高価で運航経費がかなりかかるため、大量荷物の輸送需要がないと、収益性はあまりよくない。しかも大型汽船の場合は、寄港できる港がかなり限られる。一方帆船は、汽船より小型で、海難に遭うリスクは汽船より高いが、船体価格は汽船より安く、弾力的な輸送に対応しやすい。こうした

帆船と汽船の双方のメリットとデメリットがせめぎ合っていたのが明治期であり、それを活かした複合的な海運経営の実態が、廣海二三郎家文書から読み取れる。

さらに廣海二三郎家の小樽店や大阪本店での取引が判明する帳簿（「金銭出納帳」「貨物仕訳帳」）も本コレクションに残されている。その取引相手には三井物産も含まれ、廣海二三郎家が近代期に新たに北海道に進出した巨大資本と対抗するのみではなく、部分的には協調して自らの商圏を確保したことも読み取れ、同家の海運・商業経営については、かなり詳しい実態を本コレクションで明らかにすることが可能であろう。

海運以外では、廣海二三郎家の鉱山経営に関する文書も豊富に含まれる。同家は九州に多くの鉱山を所有し、鹿児島県に鉱業事務所を設けていた。その「元帳」や「決算書類」が1900年から1926（昭和元）年にかけて連続して残され、鉱山経営については、全体像を比較的容易につかむことができる。そして、海運業・鉱山業で資産を蓄積した廣海二三郎家は、19世紀末には大阪に本拠を移して、大阪の会社設立や会社経営に大きく関わるようになった。自らの家業

を廣海商事株式会社として法人化するとともに、日本海上保険株式会社の社長となり、その後三十四銀行や共同火災保険株式会社の取締役を務めた。本コレクションでは、1930年頃の同家の資産の内訳が判明するが（「相続財産目録」）、約1,030万円の評価額の株式を所有し、それ以外に廣海商事株式会社社債として400万円分を所有しており、同時点での同家所有の有価証券資産は約1,440万円に上った。これは当時の大阪財界のなかでも屈指の金額と考えられ、本コレクションを検討することで、近代日本の経済を多面的に解明することができると考えられる。積極的な活用を是非期待したい。

廣海二三郎家に関する参考文献

- 佐々木誠治『日本海運業の近代化』神戸：海文堂，1961.4
 中西聡『海の富豪の資本主義：北前船と日本の産業化』
 名古屋：名古屋大学出版会，2009.11
 中西聡『旅文化と物流：近代日本の輸送体系と空間認識』
 東京：日本経済評論社，2016.12





東洋印刷文化の歴史を知る

— 漢籍整理長期研修に参加して —

山田 摩耶

(スペシャルコレクション担当)

漢籍ってどんなもの？

『史記』『論語』『大學』『西遊記』『三國志演義』など…一面びっしりと漢字で埋められ和綴じされた書物は、一見すると難しそうで堅苦しいイメージがありますが、その先には奥深い世界が広がっています。

漢籍とは、狭義には中国の清代の終わり、1911年の辛亥革命以前に「中国人が中国語を使って自著、編集、注釈、翻訳した書物」のことを指します。

しかし、中国の書物は古くから朝鮮半島や日本などの周辺国にも数多く伝えられ、それぞれの地で漢籍をもとにした様々な書物が残されました。そのため広義には、内容が清代までの中国人の著作物であれば、中国以外での出版物でも「和刻本」「朝鮮本」という漢籍とみなされます。同様に現代に復刻をされている書物も漢籍と扱われるなど、一言で漢籍といっても、

その出版地や刊行年は広い範囲に及んでいます。そのため三田メディアセンターはもちろん、他にも日本には漢籍を所蔵する図書館が数多く存在します。

いざ研修へ！

この度、漢籍の知識を身につけるため、東京大学東洋文化研究所で実施された、漢籍整理長期研修に参加してきました。この研修を主催する東洋文化研究所は、1941年に創設された日本屈指の東洋学の研究機関の一つで、世界でも有数の漢籍を所蔵しています。


1980年代から続く歴史あるこの研修は、漢籍を所蔵する図書館のスタッフを対象に、毎年6月と9月に分けて、それぞれ5日間ずつ開催されています。漢籍の整理や取り扱いに関する技術習得と、漢籍を広く学術利用することを目的とし、講義だけでなく、目録作業や補修作業などの実習もプログラムの中に組み込まれています。研修を通じて体系的に漢籍を理解することができるため、毎年10名程度の募集人員に全国の図書館から応募が殺到する非常に人気のある研修で、今年は初めてはるばる海外（台湾）の図書館からも参加者がありました。

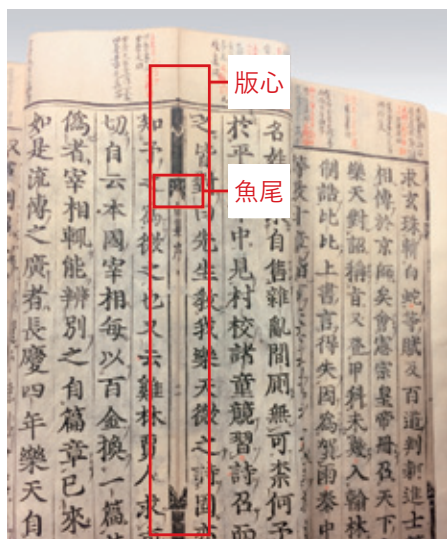
6月の研修では、漢籍に関する概説、四部分類（漢籍の伝統的分類法）、朝鮮本解説、目録法概説の講義とともに、実際に一人1冊の漢籍を手にとって、書誌事項をデータシートに記載する実習が行われました。



三田所蔵の漢籍

データシートの実習

書物を特定するための事項は、書名、巻数、^{せんじつ}撰者（著者など）、^{しょうこく}鈔刻（出版年、出版地など）の基本的な項目のほか、^{はんしき}版式とよばれる項目には、1頁あたりの行数や、1行あたりの文字数、行間にひかれた罫線の有無や、^{はんしん}版心（紙の折り目部分）に印刷されている題やその上下にある^{ぎよび}魚尾（)の模様の様子など、こと細かにデータシートに記入します。こうした詳細の情報を記述することで、世の中に複数存在する同じ漢籍の版の違いを判断することができるわけです。



版心（魚尾のある部分）

撰者や鈔刻の記述は、漢字ばかり並べられた本文から、著者や、出版事項を同定するのが非常に難しい作業です。姓名だけ書かれているならまだしも、著者の出身地名や、号などの本名以外の名前、書物執筆時の著者の肩書まで、著者名の前に長々と記述される場合もあり、清代以前の人名辞典や、地名辞典、大漢和辞典などを駆使し、姓名を特定します。また、出版年も年号辞典を片手に特定するなど、かなりの時間がかかりました。

他にもデータシートには、対象の書物が一枚板に文字を彫られた「刊本」か、一文字ずつ木の活字を

組み合わせて刷られた「木活字本」か、印刷された文字のインクののり具合から金属の活字を使った「銅活字本」かなど、刷られた一つ一つの文字の位置やインクの付き方から、その漢籍がどのように刷られたか判断し、記述していきます。

最後に

今回6月開催の研修で講義を聴き、実際にデータシートをとることで、東洋の書物文化がどう伝わってきたか、印刷文化の歴史をほんの少し垣間見ることができました。とは言っても、漢籍の知識は目録の知識だけではなく、その書物が生まれたときの歴史や当時の社会情勢など周辺の知識も必要とされ、数多くの漢籍に触れてこそ身につくものだと実感しました。

三田メディアセンターや斯道文庫では多数の漢籍を所蔵しています。中には、中国では現在失われ、過去に日本にわたってきた貴重な漢籍（佚存書）も所蔵されていて、図書館1階の展示室で行われる企画展示でお披露目されることがあります。機会があれば、是非本物の漢籍をご覧いただき、東洋の書物文化、印刷文化の歴史を肌で感じてみてください。

研修で使ったデータシート



挙動不審者じゃないんです！ 害虫との密かな闘い

図書館の物陰でごそごそ作業している白衣の人を見た事がありますか？ 急病人が出たわけではありません。スタッフが害虫チェックをしているのです。

本好きの人を「本の虫：Bookworm」と言いますが、図書館には読書家以外にリアルな虫も潜んでいます。例えば敏捷な銀色のシミやお馴染みのゴキ〇リ（ここで読むのをやめないでくださいね！）は雑食で紙や糊も食べますが、お菓子の食べかすなどのごちそうがあったらきっと大喜びです。そして漢字名も怖いシバンムシ（死番虫）。幼虫は古い本の中や段ボールに棲息し、紙をトンネル状に食い進んで貫通させてしまいます。その他の虫については痒くなってきそうなので割愛しますが、1滴の水で1年も生き延びるような害虫と図書館はどう闘っているか？ かつては薬剤で燻蒸が行われていましたが、環境と人体への悪影響が問題視され、現在はIPMという考えに基づく処理が主流となっています。



シバンムシのトンネル

IPM（総合的有害生物管理：Integrated Pest Management）とは？

強い薬剤で生態系まで崩してしまわないよう、複数のマイルドな防除法を併用して高い効果を狙います。この考えに立った害虫除けの段取りは以下の通り。

- ① 虫を誘うものを回避。（書庫や本を清潔に保つ。）
- ② 隙間テープなどで外部からの侵入を遮断。

- ③ 虫がいないか粘着式の害虫トラップで定期チェック。余計な虫が寄ってこないよう、餌なしトラップで通りすがりにひっかかった虫の種類や数を継続的に記録し、異状にすぐ対処できるようにします。



害虫トラップ

虫がいる場合どうすれば？ …三田メディアセンターで採用している方法の一部をご紹介します。

〈脱酸素処理〉

本と脱酸素剤と酸素検知剤（お菓子の袋のピンク錠剤と同じ）を専用の袋で密閉し、一定期間無酸素状態にして虫を駆除します。

〈低温処理〉

ビニール袋に密封した本を-45℃で一週間冷凍。（ここまでしないと卵は生き延びるらしい！）



本が少なめなら脱酸素処理



極寒！-45℃冷凍庫

図書館には場違いな害虫トラップをルーペで凝視するスタッフは、傍から見ると怪しい人に思えるかもしれませんが、実は大事な蔵書を害虫の被害から守るための地道な作業なので、不審がらずに温かくスルー(?)していただければと思います。

（スペシャルコレクション担当）

主な出来事 (2017.4 - 2017.9)

日本初・図書館システムの大学間共同運用に向けた覚書締結

2017年5月12日、慶應義塾大学メディアセンターと早稲田大学図書館は2020年度を目途とする日本初の図書館システムの共同運用に向けた覚書締結の調印式をメディアセンター本部で行いました。

両校は1986年4月1日より「早稲田大学および慶應義塾の図書館相互利用に関する協定書」を締結し、これまでも相互利用ができる仕組みとなっていました。今回この枠組みを拡大することで、共同で利用する図書館システムを選定、そこに両大学の図書データを格納し、これを相互利用することにより利便性の向上を図ります。

日・EUフレンドシップウィーク「EUとオープンアクセス」を開催

EU情報センター（日本では18大学に設置）では、毎年5月9日のヨーロッパ・デー（欧州連合の誕生日）を中心に、イベント「日・EUフレンドシップウィーク」を開催しています。2017年の三田メディアセンターのテーマは「EUとオープンアクセス」でした。6月19日から30日の間、図書館1階のラウンジにてパネル展示を行い、「オープンアクセス」をキーワード



に、EU諸国のオープンアクセスへの取り組みを紹介しました。またパネル展示と並行して、USBやEUのピンバッジなどのオリジナルグッズが当たるEUクイズも行い、今年は約50名の方が参加しました。

インターネットを通じて誰もが無料で学術論文を利用できるオープンアクセスが目まぐるしく注目されている今、これまでの学術出版のビジネスモデルだけでなく、学術情報流通、さらには研究そのもののあり方までもが大きく変わろうとしています。今回の展示を通じてオープンアクセスとはなにか、EUのオープンアクセスに対する取り組みについて理解をより深めていただき、今後の動きに注目していただければ幸いです。

図書館展示室：4つの企画展示を開催

今期は、飛び出す絵本やおもちゃ絵などちょっと変わった図書館蔵書を紹介した「Cute & Funny」展（3/21-5/20）で始まりました。学問の家として著名な清原家（清家）ゆかりの漢籍を展示した「清家展」（5/29-6/24、文学部国文学専攻主催）、歴史資料から慶應義塾の人と教育を照射した「福澤諭吉・慶應義塾史 新収資料展」（7/3-8/5、福澤研究センター主催）と続き、通信教育課程補助教材『三色旗』表紙シリーズとの連動企画「明治浮世絵の世界」（同時開催 第28回貴重書展示会「鏡花の書斎」ダイジェスト）（8/21-9/9）まで、4つの多様な展示を開催しました。



展示の隠れた面白さや監修者の資料に対する思い入れを聞けるギャラリートークは、展示見学の楽しさを何倍も大きくしてくれる、人気のイベントとなっています。

お 知 ら せ

■ 図書館和書 (A@) と図書館洋書 (B@) の資料移動について (報告)

三田メディアセンターでは、書架スペースを有効活用するために資料の移動作業を継続的に実施しています。この夏休みの間に、図書館和書 (A@) と図書館洋書 (B@) の配置場所が大きく変わりました。特に図書館洋書 (B@) は旧館または別館 T に移動し、新館 B2F にはありませんのでご注意ください。お探しの資料が見つからない場合には、1F のカウンターにご相談ください。

対象資料	建 物	フロア	請求記号
図書館和書	新 館	B1F	A@300 ~ A@399
		B2F	A@000 ~ A@299 A@400 ~ A@999
図書館洋書	旧 館	3F	B@230 ~ B@288
		1F	B@289 ~ B@899 (※)
		B1F	B@900 ~ B@999
		B2F (※)	B@332.35 ~ B@337.99 B@520 ~ B@529 B@700 ~ B@799
	別館 T	—	B@000 ~ B@229

※B@289～B@899のうち、一部のものは旧館B2Fに配架されています。

■ We are listening. -図書館についてお聞かせください-

メディアセンターでは、11月1日から12月8日にかけて、図書館サービス品質評価のための利用者調査アンケート LibQUAL+® (ライブカル) を実施します。対象となる方には依頼のメールが届きますので、ぜひ「最も利用するメディアセンター (図書館)」についてご回答ください。

調査に関する詳細はこちらをご覧ください。 <http://libguides.lib.keio.ac.jp/libqual2017>

■ 今年度も日曜開館を実施します

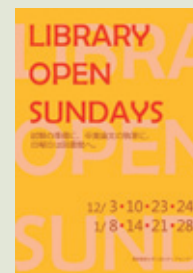
日曜開館は、みなさまからのアンケートのご要望を受ける形で2015年度から開始しました。今年度も昨年同様に12月と1月に実施します。秋学期試験の勉強や卒論・修論の執筆にどうぞご利用ください。

実施日：12/3, 12/10, 12/24, 1/8, 1/14, 1/21, 1/28

時 間：10:00～18:00

※12/17(日)は法定停電のため、開館しません。

※12/23(土)は授業実施日のため、通常土曜日と同様に開館します。




編 集 後 記

記念すべき第10号は、図書館のウリであるライブラリー・オリエンテーションを特集に据え、本当は秘密にしておきたかった(?)害虫との闘いまで、幅広くお伝えしました。害虫と闘っているスタッフも、実はライブラリー・オリエンテーションの講師を担当するなど、陰日向に仕事をしています。この秋オリエンテーションエリアは、エレベータ前に新設のイベントエリアにお引越です。ウリを高めるべく、場所も内容も充実させていきたいと思います。

編集・発行 慶應義塾大学 三田メディアセンター
〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
TEL 03-5427-1625 FAX 03-5484-7780

発行日 2017年10月1日
印刷 有限会社 梅沢印刷所

<http://www.mita.lib.keio.ac.jp>
Twitter: @Keio_MitaLib

 慶應義塾図書館